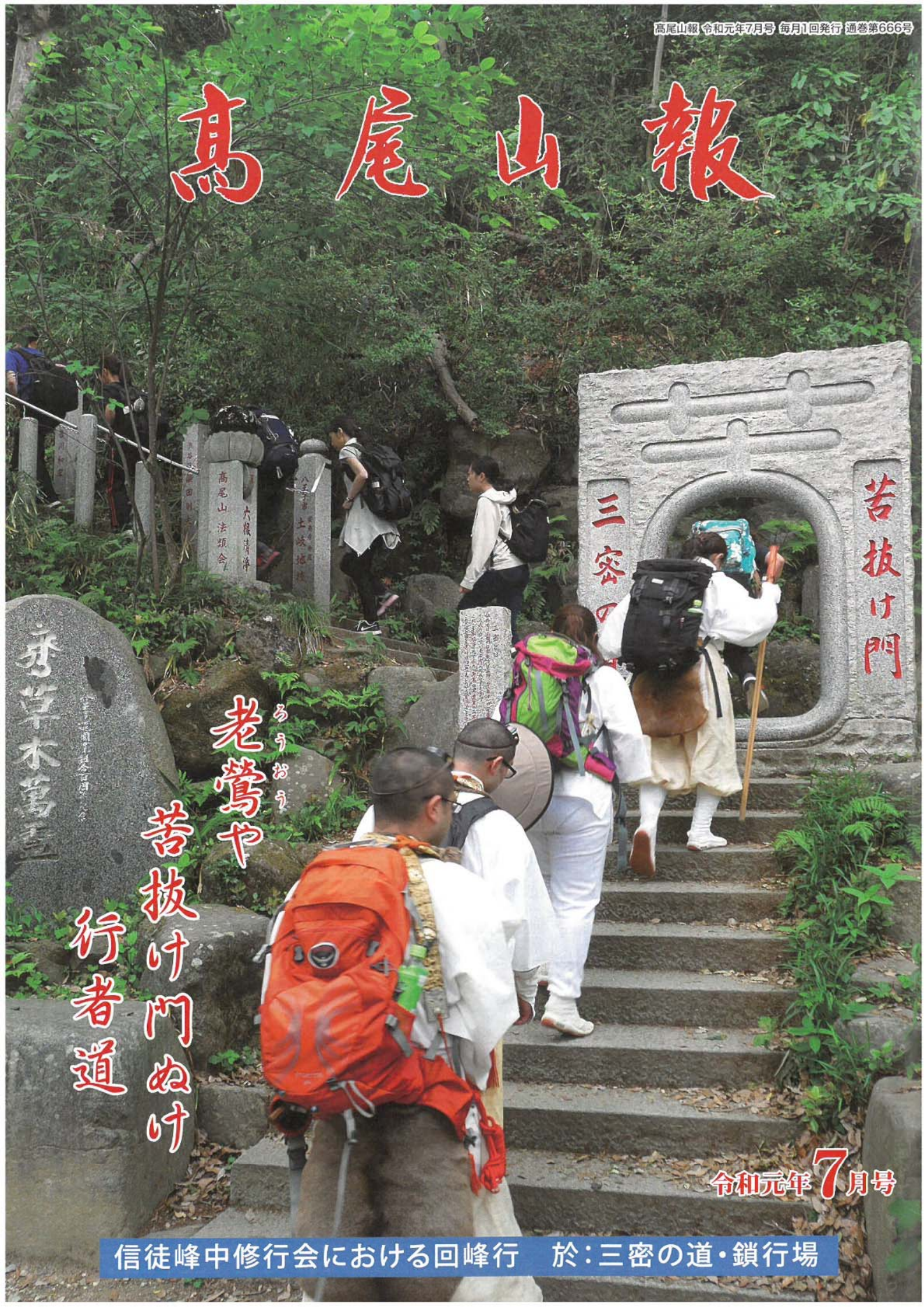


高尾山報



苦抜け門

三密

老鶯や
あうおや

苦抜け門ぬけ

行者道

赤草木萬巻

高尾山法顕会

八王子市土岐地蔵

令和元年 7月号

信徒峰中修行会における回峰行 於：三密の道・鎖行場



笹の葉さらさら
軒端に揺れる
お星さまきらきら
金銀砂子
〔たなはたさま〕

この時期になると思い出す童謡です。昭和十六年（一九四一）三月に、文部省発行の「うたのほん下」に掲載されました。今年も願い事を書いた五色の短冊が、笹の葉とともにさらさらと揺れています。

七夕の行事は、仏教とも深く結び付いています。七月七日は「七日盆」と呼ばれ、地方によっては、お盆の始まりの日として、お墓やお仏壇のお掃除などの準備を行います。

お盆にはお寺で大施餓鬼会という法要が営まれますが、そこで設けられる壇（施餓鬼壇）の周りに、仏さまのお名前を記した

五色の旗（施餓鬼旗）が掛かっているのをご覧になったことがありますでしょうか。仏教の五色とは、青（緑）・黄・赤・白・黒（紫）の五色の色を表し、それは七夕の「五色の短冊」とも関わっています。願い事を込めた五色の短冊には、仏さまの教えも込められているのです。

織姫と彦星は、今年は無事に逢えたでしょうか。限られた時間の中で、二人はどのように時間を過ごしたのでしょうか。輝く夜空の上から、もしかすると私たちの願い事を一緒に読み合ってくれたかもしれません。

今はとて
別れる時は
天の河
渡るぬききに
袖ぞひちぬる
〔古今集〕

（また来年逢いましう」と言って別れる時、彦星は天の川を渡る前から、涙で袖が濡れているよ）

出会いがあれば、必ず別れがあります。一年間待ちに待った二人の逢瀬は、流れ星が一瞬にして消えるように、あつと言う間に過ぎ去るでしょう。たとえ晴夜に会えたとしても、別れ際にはいつも涙が溢れます。

私たちが生きるこの儚



五色の旗が掛けられた施餓鬼壇における法要

い世の中は、一瞬たりとも時が止まりません。これを仏教では「無常」（常無し）と言います。では、どれくらいの早さで流れているのでしょうか。

例えば、流れ星が消えるまでの時間は、通常一秒も無いそうです。「流れ星の尾が消えないうちに、願い事を三回唱えれば叶う」という言い伝えがあります。それは容易なことではありません。また、機械式の腕時計に耳を近づけると「チチチチ」と音を立てていきます。これは一秒間に五十振動のものが多く、そうで、〇・一秒から〇・二秒に一回の割合です。

仏教では「ほんの短い時間」を「刹那」と呼びます。刹那は最も小さい時間単位で、その長さは七十五分の一秒とも言われ、また指をパチンと弾いて鳴らす（弾指）間に六十から六十五の刹那があるとも言われます。まさに、意識されることのない瞬間です。

折り折りの記 (119)

高尾山のリフトに覗く山法師

「羽の旅の白に印象山法師」（佐久間庭鳥）という句がある。

緑の中に白は目立つ。高尾山の木々の新緑が美しさを増す初夏の頃、「リフト」に乗り高尾山を上ると橋桁の隙間の緑の中に、山法師の真白な花が浮かび上る。

普通花は下から眺めるものであるが、花を足下に見るのは珍しい。一際目立つ白い四枚の花弁は、植物学上は総苞片という。花そのものは真ん中の丸い部分に、二十個から三十個くらいの小さな花が集まり全体を形成する。花は葉の上に咲いている。あつという間にリフトは通過する。

（高尾山健康登山の会会長）

九十九里浜

遠浅海浜沖徘徊

突如大波転若才

日照碧水海底明

跳抱若女除水災

透きぬる水族館のこぼれ光
もうお釈迦と殉死と覚悟
遠浅の砂浜をちひまであらうろろ…
突然の大波に二転・三転する
二十三歳の私…
陽光の透き通る美しき碧き天井を
海底より眺めつ、死を覚悟…
海底より眺めつ、死を覚悟…
初期の力を振りしほり、跳び抱きつ、
若き乙女に…
よつて、「男子中厄」の水難より
危機一髪除災するの…

束の間の時間をめぐつては、次のような話が伝わっています。

今は昔、源満仲朝臣という勇猛で武芸の道に達していた者の家臣に、やはり荒々しい気性の持ち主がいました。日頃から善根（善い行い）を作ろうとせず、殺生（生き物を殺すこと）ばかりを生業としていました。

ある時、広い野原で鹿を追っていたときのこと。とある寺の前に差しかかり、馬に乗りながら中をうかがうと、地藏菩薩が立っておられます。男は少し敬う心を起こすと、左の手で笠を脱いで一礼し、その場を立ち去ったのでした。

その後さほど時を経ずして、この男は病にかかり亡くなりました。すぐに冥途の間魔王の御前にやってくる、周りには多くの罪人がいます。男はこれまでに積み重ねた罪を思い起こして嘆き悲しみました。

するとそこに、厳かな

姿をした一人の小僧が現れ、男に話しかけてきました。「私はそなたを助けてやろうと思う。すぐに国に帰って、これまでの罪を償済するが良い」と。「あなたほどなたですか」と尋ねると、「私はそなたが鹿を追っていたときに、ちらつと見た地藏菩薩だ。須臾の間（ほんの僅かな間）でも私を敬う心を起こしたので助けたのだ」と仰ると、男は忽ちに生き返ったのでした。

（『今昔物語集』）

蘇生した男は、その後は殺生をすることもなく、道心（仏道を願う心）を起して、日々お地蔵様を念じ続けました。お地蔵様の大いなる慈悲心（情け深い心）を受けて、刹那の善行を積み重ねる仏の道を、新たに歩み始めたのでした。

刹那算えずといへども、
これを運びて
止まされば、
命を終る期、
忽ちに至る。

（『徒然草』 百八段）

（刹那という一瞬は、意識できないほどに短いけれど、これをずっと積み重ねて過してしまっていると、たちまちに命を終える時がやって来る）

一年ぶりに再会した織姫と彦星は、限られた刹那の時を噛み締めているのでしょうか。「刹那生滅」という言葉があるように、夜空には今宵も、無数の流れ星が一直線に輝いては、瞬時に消えてゆきます。

（栃木北部教区普濟寺）

第四十四回 高尾山慶賛会通常総会開催

去る六月十七日、第四十四回高尾山慶賛会通常総会が八王子エルシイにて開催され、百名以上の方々に御参加頂きました。

総会は慶賛会々長である、大野彰氏の挨拶により開会し、議長の選出、平成三十年度の事業報告及び会計報告、監査報告、平成三十一年度・令和元年度の事業計画案及び予算案の順で議事が進められました。

続いて高尾山協賛各団体に、高尾山及び高尾山慶賛会より賛助金が贈呈され、菅谷執事長より謝辞が述べられました。

総会後には前八王子市長で、現在はNPO法人の「八王子・台湾友好交流協会」で理事長を務める、黒須隆一さんによる記念講演、「世界一の親日国・台湾」が行われ、日本と台湾両国間の歴史についてお話され、会場の皆が聞き入っております。



謝辞を述べる菅谷執事長



黒須隆一さんによる記念講演「世界一の親日国・台湾」

慶賛会 入会のすすめ

もともと仏教語で「慶賛」とは、仏教寺院、堂塔などの新築、修繕を祝賀する意味であります。高尾山慶賛会は、高尾山古来から伝承された年中行事を賛助し、御木尊・飯縄大権現様を尊信し、地域社会の親睦を図ることを目的としております。

高尾山は現在ミシュラン三ツ星を頂き、『心のふるさと祈りのお山、世界に冠たる高尾の自然』と称せられ、多くの参拝者が来られています。

ぜひとも茲に広く高尾山慶賛会員を募り、ご加入ご協賛を頂き、ご本尊様の威神力に浴されますよう祈念するものであります。

年会費 一口五千円

詳細は高尾山慶賛会事務局にご連絡下さい。 〇四二一六六二二一五



待衣装を着た慶賛会の皆様

祝・「駒ヶ根高原高尾さくら保存会」表彰 高尾山駒ヶ根分霊院御礼参り

毎年五月三日には長野県駒ヶ根市において、高尾山より僧侶が赴き、高尾山駒ヶ根分霊院例祭を執り行っておりま

す。お礼参りの為六月七日、六十名以上の御信徒の皆様が高尾山駒ヶ根分霊院参拝団として、来山されました。

駒ヶ根市内の有志で結成した「駒ヶ根高原高尾さくら保存会」の小松厚美会長（写真前列中央）がおります。

保存会の前身であるボランティア団体から数える、五十年近くも折草山周辺を始めとする駒ヶ根高原において、桜の植樹や老木の手入れなど、桜保全活動を続けられております。

そしてこのたび、長野県内の桜の保護や、さくらを通じた国際親善を行う愛護団体の「長野さくら会」より、「さくら保存会」が「さくら功労者」として表彰されました。

小松会長は精進料理が用意された大広間において「今後も桜を守る活動を、より一層力を入れていきたい」と話されました。



菅谷執事長と記念撮影する駒ヶ根分霊院の皆様

智山専修学院生 来山される

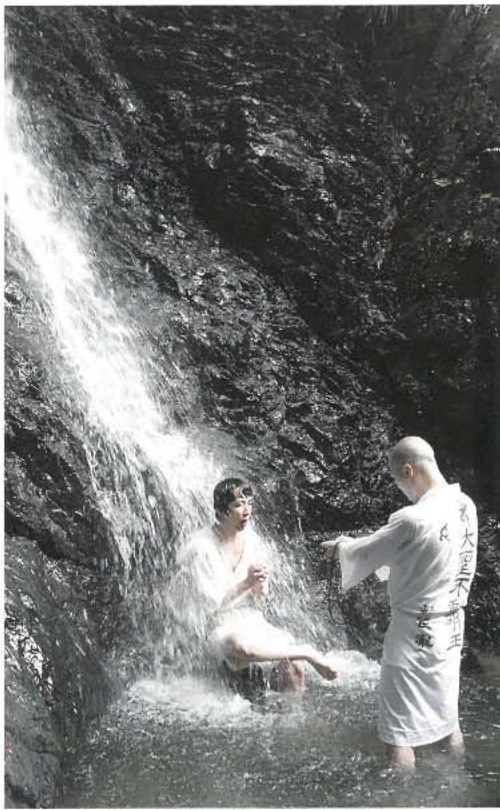
六月五日、真言宗智山派の僧侶育成機関である、智山専修学院より、十七名の修行僧と引率の本山僧侶二名の総勢十九名が参籠された。

一行は、関東三大本山巡りの一環として高尾山を訪れ、琵琶滝水行道場にて水行を修し、大本坊までの山道を徒歩修行を行った。

翌朝の大護摩供修行に参加して修行満足と学業成就を御祈念され、朝食の後、無事下山された。



宿坊となる大本坊前における記念撮影



気合いを込めて水行を修す



山内各所で法楽をあげる



大本堂内での千巻経



一文字一文字に仏さまを感じながら丁寧に般若心経を写経する

初夏の高尾山で修行を実践

第百十六回 信徒峰中修行会

六月一日～二日



柴燈大護摩供にて諸願成就を祈る



御嶽隆佑先生による法話『何故修行するの?』



菅谷執事長と共に大本坊前にて記念撮影

観音菩薩の宗教

19

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

マリア観音について

世界各国の宗教分布に
関して、日本が示す一
パーセント弱という特異
な数値がある。それは日
本の総人口におけるキリ
スト教徒の割合である。
この数字は、仏教圏であ
りながら社会主義国と
なった中国の約七パーセ
ント、同じく仏教文化圏
の韓国約三十パーセン
トと比較すると、日本の
低さが際立って見えよ
う。そのみならず、日本
のキリスト教徒はイスラ
ム諸国と比べてもなお低
い。例えば、「イスラ
ム過激派」などがメデ
ィアを賑わすシリアにお
いてすら、一〇パーセン
トのキリスト教徒がいると
される。現代日本は信教
の自由が認められ、キリ
スト教の側も布教に熱心

であるにもかかわらず、
キリスト教徒が増えない
という特色がある。
歴史的に顧みれば、日
本には三度、キリスト教
の広まるチャンスがあっ
た。
最初の大きなチャンス
は室町末期の戦国時代で
ある。天文十八（一五四
九）年、カトリック教会
の修道士であったイエズ
ス会のフランシスコ・ザ
ビエルがキリスト教を日
本にもたらすと、織田信
長の庇護もあって急速に
信者の数が増大した。こ
の時代は、高山右近や細
川ガラシャなど、キリシ
タン大名と呼ばれた実力
者から一般庶民まで、キ
リスト教は社会階層の上
下を問わず広まっていた。
日本に渡来したパードレ

すなわち神
父は伴天連
と呼ばれ、
日本語や仏
教の知識を
習得して大
いに日本人
信者を獲得
した。しか
し信長の後
に天下を
取った豊臣
秀吉は伴天
連追放令を
出し、次い
で徳川幕府
は禁教令を
発布して事
実上、日本
からキリス
ト教を追放した。

第二のチャンスは明治
維新の文明開化によるキ
リスト教の受容である。
仏教と密接に結びついて
いた徳川幕府の政策は明
治初年の太政官布告によ
り一変させられ、欧化政
策の流れの中でキリスト
教も布教の足がかりをつ
かんだ。当時のキリスト
教徒には、内村鑑三や新



子育て地藏尊。江戸期の作と推定。一説に隠れキリシタンのマリア観音とされ、背部に十字架を想起させる模様がある。岩内町郷土館蔵

渡戸稲造、新島襄などの
一流の人物が輩出した。
内村鑑三は札幌農学校
でクラーク博士の薫陶を
受けてキリスト教徒とな
り、後に東大でキリスト
教を講義したときには前
列に輪袈裟をかけた僧侶
までが聴講したと伝えら
れる。明治期日本人のキ
リスト教の理解は深く、
第一級の信者を生んだが、

その精神が一般庶民にお
よぶことはほとんどな
かった。いわば明治の日
本キリスト教はインテリ
や上流階級だけの信仰で
あった。
第三のチャンスは大東
亜戦争の敗戦後のアメリ
カ進駐軍の政策である。
占領軍の最高司令官だっ
たマッカーサー將軍は、
天皇陛下をも含めた日本

人全員をキリスト教徒に
すると豪語したが、実際
には戦後三年経つても
戦前と変わらぬ人口の
〇・四パーセントを超え
なかつた。戦後、表面的
には日本人々はキリス
マスなどのキリスト教文
化に熱狂した。黒澤明監
督の『醜聞（スキャンダ
ル）』（一九五〇年）には
サンタクロースの恰好を
した三船敏郎が「メリー
クリスマス！」と言つて
通行人にピラを渡すシー
ンが写されている。BGM
は賑やかな「ジングル
ベル」の曲である。こう
した風潮はクリスマスイ
ブにおける若者のデート
などを加え、こんにち二
層盛んの様相を呈してい
るが、それが内面の信仰
と一致しているかという
点、冒頭に示した「パー
セント以下の数値がすべ
てを表わしている。ごく
一部を除き、クリスマス
は商戦であり、教会の結
婚式はファッションとい
つてよい。

結果としてみれば、こ

れら三度のキリスト教布
教のチャンスは失敗とい
わないまでも不成功で
あったとはいえるであろ
う。その理由はすでに
種々に論ぜられているが、
ここでは深く立ち入らな
い。

観音菩薩を主題とす
る本論において、少々脇
道の前置きが長くなった。
ここでは信長の時代に弘
まったキリスト教が仏教
と習合したり、その後の
禁教のなかで仏教を隠れ
みのとして密かに生き
残った歴史と思想を見て
みたい。その適例となる
のが「マリア観音」である。
マリア観音とは、子を抱
いた姿の観音像がイエ
ス・キリストの母であつ
た聖母マリアとして信仰
されたことをいうが、そ
の呼称は古からず明治以
後のものである（藤原暹
「辺土仏」マリア観音」
の深層「速水侑編『観
音信仰』雄山閣所収」）。
キリスト教が日本に伝
わった当初、ルイス・フ
ロイスなどのカトリック

の宣教使は、日本人の熱
狂的な観音信仰に注目
している。ことに観音浄
土である補陀落への往生
を願つて帰らぬ海への旅
に出る「補陀落渡海」に
ついて詳しく報告した。
フロイスの目にこれらの
渡海者は熱烈なる殉教
者と映つたが、キリスト
教の信仰から見れば彼ら
は「悪魔に導かれた者」
であつた（同前）。とは
いえ、観音菩薩が聖母マ
リアと習合する以前から
深く尊崇されていたこと
は、マリア観音の宗教的
背景として注目しておく
べきである。当然ながら、
慈悲の菩薩の観音と愛に
満ちた聖母マリアに共通
する性格があつたことも
看過できない。

来日宣教使の努力によ
り多くの「キリシタン」
が現れたが、禁教令が出
ると、一部の信者は潜伏
したり偽装したりして、
密かにその信仰を守り伝
えていった。マリア観音
はそうした「隠れキリス
タン」の信仰の拠り所の

ひとつであつた。美術史
学者の若桑みどりによれ
ば、十六世紀末期から
白磁や青磁の明産の
「慈母観音像」が日本
に舶来し、後に日本で作
られた同様の像を加え
それが聖母マリアとして
尊崇されるようになった
（『聖母像の到来』青土
社、二〇〇八年）。前回
述べたように、女性化し
た観音菩薩は赤子を抱
いた姿の慈母観音・悲母
観音として、以前から
人々の信仰を集めていた
（『観音菩薩の宗教』）。

その姿は幼きキリストを
抱く聖母マリアと重なる
もので、慈母観音像をマ
リア像として尊崇するこ
とは図像的にも、偽装
上も妥当であつた。若桑
みどり氏は、造形上、マリ
ア観音には次の三種があ
るとした。第一は子供を
抱かぬ観音単体の立像、
第二は片膝を立てて子供
を抱く坐像、第三は子
供を抱いて玉座に坐る坐
像である。これらはいづ
れも慈母観音として作

成されたため、キリスト
教的な特色を見出すこと
は難しいものであつた。

禁教以来三百年、隠
れキリシタンたちは司祭
などの宗教指導者不在の
なか、その信仰を密かに
親から子へと子々孫々伝
えてきた。そうしたなか
キリシタンの信仰は独自
の展開をしてゆき、二〇
〇八年の報告では、朝に
なるど仏壇に手を合わせ
た後、納戸の御神体にオ
ラシヨというキリスト教
の祈りを捧げる長崎県生
月島のキリシタンもいる
という（広野真嗣『消さ
れた信仰』最後のかくれ
キリシタン』小学館、
二〇一八年）。マリア観
音もまた、観音菩薩に
慈悲や権化の思想があつ
たからこそ、聖母マリア
と習合したと見るべきで
あろう。



祭の祈禱所

明治大学博物館 外山 徹

28

嘉永、安政期の動向

十二代和歌山藩主徳川齊順は、弘化三年（一八四六）の年初より体に變調を來し、閏五月に病はいよいよ重篤化した。

十二代藩主齊順

その時点で齊順には子が無く、後継にはさまじまな思惑が交錯した。大殿治宝は支藩である西条松平家の頼学を推すが、幕府に通ずる家老水野直央の主導により齊順の異母弟（すなわち同じ將軍家齊の子である）齊彊が御三卿清水家の当主から転身することになった。齊順は同月八日に死去。齊彊の藩主就任から間もなくの七月二六日、和歌山城太守が落雷のため焼失する。就任早々の齊彊にとつてこの再建が課題となった。城郭の修築には幕府の許可が必要で、江戸城がそうであるように、一度失われた天守は必ずしも再建されるとは限らなかった。

そのような非常事態もあつたか、齊彊の御国入りは遅れに遅れ弘化五年（一八四八）四月六日のことになる。藩主就任から二年が経とうかという頃だつた。同月、嘉永に改元。そして、年が明けた頃から体調を崩し、本復することなく三月に二八歳の若さで死去してしまふ。御国入りから二年経たず、三年に満たない治世であつた。

閏四月、先代齊順の遺児菊千代がわずか二歳で擁立され十三代藩主となつた。そもそも、齊順

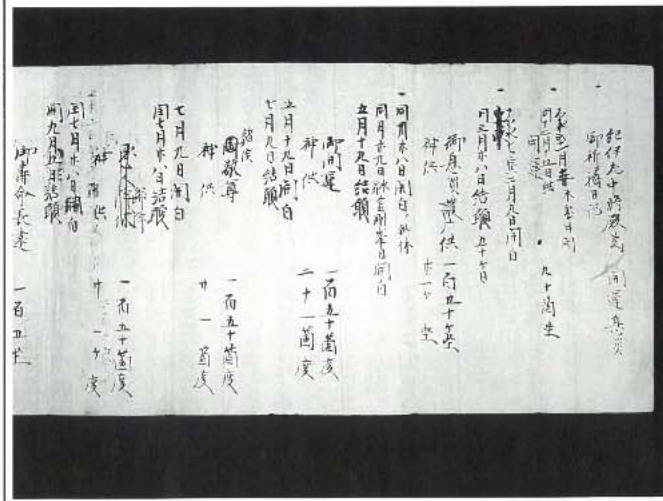
にしても養嗣子であり、大殿治宝が藩政の実権を手放さず、次代の齊彊も三年に満たずに死去。そして幼年の菊千代擁立と、和歌山藩における藩主の主導力はすつかり影をひそめてしまつたと言える。治宝は菊千代就任の時点で未だ健在だつたが、嘉永六年（一八五三）に死去。八一歳の長寿だつたが、晩年は政争の渦中にあつた。時をおかず治宝派の藩士は処断され、ここに藩政は家老主導の体制へと移行する。嘉永年間には高尾山主の交代も目まぐるしくあつた。二〇世純の跡を承けて嘉永三年四月に二世秀仙が晋山するが、在任わずか三年半余り。同六年九月には病氣のため隠居となり、二世秀盛が住持の座を継いだ。

嘉永六・七年の祈禱

この嘉永六年（一八五三）から翌年にかけての紀州家に対する祈禱の記録が残っている。その冒

頭の部分を引用してみよう。

- 一、嘉永六十一月十五日 木食日開
- 同十二月十五日結 開運 九十箇座
- 一、嘉永七寅二月九日 開白
- 同三月廿八日 結願五十ヶ日
- 御息災護摩供



嘉永6年の11月からの一連の祈禱についての記録

- 二百五十ヶ座 神供 廿二ヶ座
- 一、同月廿八日 開白ノ処休
- 同月廿九日水開
- 金剛峯日開白
- 五月十九日結願
- 御開運二百五十箇座
- 神供 二十一箇座
- 五月一日からは七月九日まで諸侯敬尊二五〇ヶ日

度・神供二ヶ度、七月九日から閏七月二八日まで悪人掃降一五〇ヶ度・神供二ヶ度、閏七月二八日から九月五日まで御寿命長遠一〇五座・神供二五座と切れ目なく祈禱が続いている。

この間の事情を伝えるものとして、嘉永七年十一月付の届書の文言に注目してみたい。それによると、「お代々様よりご厚恩こうむり、長日護摩供ご祈禱仰せ付けられ正・五・九月御札守献上」に続いて「昨年来より別段、ご武運長久のご祈禱修行まかりあり」とあるので、引用した記録が特別な祈禱執行を記したものであつたことがわかる。それでは、何故この時期にこうした集中的な祈禱の依頼があつたのだろうか。

嘉永六年六月三日、開国の要求を記した国書を携えてペリーが浦賀へ来航した。よく知られるように、大型の蒸気船による將軍お膝元への来航

は大きな衝撃であつた。それまでも外国船の来航は頻々としてあつたが、このように堂々と艦隊が江戸湾へ進入したことはなかつた。

ペリーの来航後、品川沖では葦山代官江川太郎左衛門の設計による台場の築城が開始された。それ以前においても房総半島西岸や三浦半島では諸大名が防備にあたつてきたが、この時、柳川、岡山、長州、熊本といった有力諸藩が防備を交代した。

和歌山藩は江戸湾防備の最前線に立つことこそなかつたが、藩領域は太平洋に面した長い海岸線を持ち、外国船来航への対応は他人事ではない重大事だつた。この藩邸内の危機意識が、「武運長久」の祈願に結びついたことは想像に難くない。

歴史上、外敵の脅威に際して寺社の祈禱が盛んに行われたものだが、一九世紀も半ばを迎えた当時においても、同じようなことが行われていたとい

うことのようにだ。ペリーは翌年一月に再び来航、三月三日（新暦三二日）には日米和親条約が締結され、新たに下田（静岡）・箱館（北海道）が開港された。この後、安政五年（一八五八）には日米修好通商条約が締結され横浜開港へとつながつてゆくのだが、北関東から八王子を経由する生糸輸出の盛行は高尾山信仰の興隆にも少なからぬ影響を与えることとなる。

二度目の將軍転出

嘉永二年（一八四九）に二歳で藩主となつた菊千代は、同四年十月九日にはわずか五歳で元服、將軍家慶の片諱を授かり慶福と名乗つた。ペリー来航の時は七歳。樂王院が集中的に祈禱をおこなつた時期においても藩主として自らの意志を示すような立場ではなかつただろう。

ペリー来航のすぐ後、十三代將軍に就任した徳川家定は、元来病弱で、対外交渉の難し局面において政務に影響力を及ぼすことはなかつた。早くから継嗣が取り沙汰されたが、指名されたのは紀州家の慶福であつた。それから間もなく、安政五年（一八五八）の八月八日、家定は世を去つた。

紀州家から將軍職を継ぐのは八代將軍吉宗以来のことではあつたが、この時慶福わずか二歳。吉宗が藩政改革の実績を引つ提げて江戸城に乗り込んだとは大きな隔たりがあつた。

一方、紀州家の当主は、やはり吉宗転出の際と同様に支藩の伊予西条から松平頼久が十四代藩主に迎えられ、將軍家茂（慶福）の片諱を授かり茂承を名乗つた。この時二四歳少年藩主であることに変わらなかつた。將軍や藩主が政治にリーダーシップを発揮するような状況ではなかつた。

《参考文献》安田寛子「高尾山葉王院と紀州藩」（村上直編『近世高尾山史の研究』雄山閣出版、一九九八）

おことわり 本連載では史料の引用について、読みやすく原文に手を加えています。日付は旧暦、人物の年齢は実年齢で表示しています。

梅香る松の廊下の武士の意地

八王子市 波多野重雄

赤穂義士と徳島藩

一、江戸城松の廊下の刃傷事件

元禄一四年（一七〇二）三月四日、江戸城本丸御殿梅の香の匂ふ松の廊下において、赤穂藩主・浅野内匠頭長矩（二六六七―一七〇二）が、高家肝煎の吉良上野介義央（一六四一―一七〇三）に刃傷に及ぶという事件が起きた。高家とは幕府における儀式、典禮を司る役職で、特に有職故実や礼儀作法に精通した者が、高家肝煎に選ばれた。義央は寛文八年（一六六八）に相續し、勅使・院使の接待や京都・日光・伊勢への使者をしばしば務め高家衆の手下とされた。知行は四千二百石。毎年正月に將軍名代が朝廷

に年頭挨拶を行い、これに対する答礼として三月に勅使・院使が江戸に下向する習わしであった。勅使・院使の接待にあたる響応役は三万石から五万石の大名が就任し、高家の指示を受けた。浅野長矩は、吉良義央の指図のもとで勅使響応役を務めていたが、勅使らが將軍への別れの挨拶をし、將軍が年賀の勅書に対する謝礼を述べる勅答の儀が白書院で行われる直前に、その事件は起こった。長矩は、義央の背後から「この間の遺恨覚えたるか」と斬りかかり、義央は眉間と背中に傷を負った。この刃傷の原因は長矩が礼法の指南料を贈らなかつたため義央から種々の嫌がらせを受けたなど、諸

説があるが、真相は不明である。幕府目付によつて両者の事情聴取が行われ、義央は恨みを受ける覚えはなく長矩の乱心を主張、また長矩は遺恨による行動としながらも詳細が語られぬまま裁断が下され、長矩は即日切腹。かたや義央は御構いがかつた。乱心でなく遺恨であるなら喧嘩と見るべきで、長矩のみが切腹に処されるのは喧嘩両成敗ではなく「片手落ち」と考えるのが武家社会の常識であった。

この裁定は多門伝八郎ら目付四人が異議を申し立てたが、裁定は覆ることがなく、長矩は即切腹となった。赤穂浅野家は、豊臣五奉行の筆頭浅野長政の三男長重を祖とする。長重の子、長直が、正保二年（一六四五）に常陸国笠間（五万三千石）から、赤穂（五万石）に転封した。長直は寛文六年（一六六六）に赤穂城を完成し、

二、浅野家改易と赤穂城明け渡し

刃傷事件の知らせは、事件の五日後一九日に早くも赤穂城に知らされた。その後、長矩の養子、長広の閉門、江戸藩邸の返上、領地、赤穂城の召上げとその期日が四月中旬に決まったことや情報句に決まらずに届いた。刃傷事件の相手、吉良義央が存命で、然もお構いなしの処分となる。受城使の到来が迫る四月二一日、内蔵助は家臣達に自らの考えを披露した。それは、吉良義央の処罰

三、浅野家再興

内蔵助は浅野家再興を願ひ、赤穂城明け渡しの前日に、幕府の受城目付に浅野家再興を嘆願した。又、浅野家の祈願所の遠林寺の住職裕海を通して江戸護持院の

四、討入準備

討入は同志の絞り込み。内蔵助と行動を共にする誓いの起請文提出者当初百二十人、更にしほり込み五十人に主君への「忠告」と親への「孝一や、妻子の行末を案じた後に更めて同志とし、親交の知人に後事を託す手紙を認めて血判状とした。各地に散った同志は閏八月から十一月にかけて江戸に集結し、十数軒に分かれ潜伏した。

元禄一五年七月一八日、浅野長広に対し、知行召上げの上、広島宗家への差置きという幕府の裁定が下った。これにより、内蔵助らが念願した浅野家再興の望みが完全に潰え、仇討ちに一意専心することにになった。同二八日に京都円山の安養寺塔頭重阿弥坊に堀部安兵衛ら江戸急進派を加え会議を行い討入の盟約を交わした。

五、吉良邸討入

二月一四日深夜、表門より内蔵助以下二十三人、裏門から主税以下二十四人が突入した。吉良邸には百五十人が居た。寝て居るところを襲われ、然も百人にも及ぶ者が長屋に閉じ込められ、戦いがままならず二時間にも及ぶ戦いの末探りあぐねた義央を炭小屋で見つけ、間

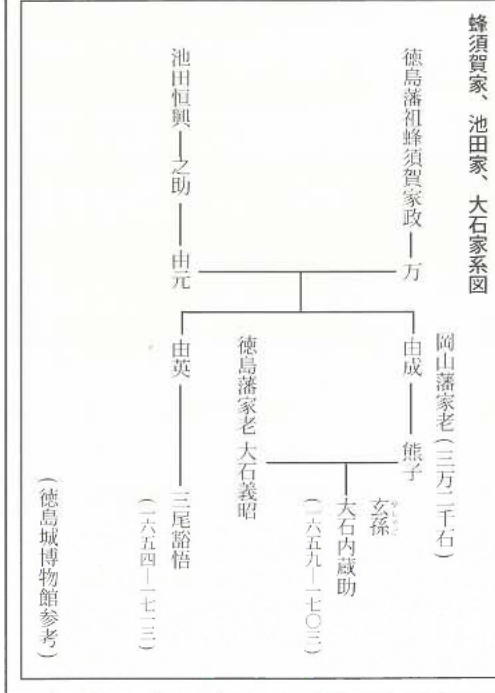
十次郎が一箱槍を付け、武林唯七が止めを刺した。戦いの結果、吉良家の死者十七人負傷者二十八人、打入り側負傷者若干。本懐を達成。

六、本懐達成

内蔵助は討入前夜、総ての準備が終わった後、親類の徳島藩の三尾勘悟に最後の別れの手紙を書き送った。「明朝吉良邸に討入り主君の仇討をする。同志は四十七人準備万端完了。武士の本懐を遂げる覚悟と経緯を綴々書き連ね長文の別れの手紙を書き送った。四十六士は泉岳寺に向

かい、浅野長矩の墓に仇討ちを報告した。その途

中、吉田忠左衛門と富森助右衛門は大目付仙石伯耆守久向に自訴し、処分を待つ事とした。一月半後、元禄一六年二月四日、幕府の裁断が下り四十六士は武士の処遇により切腹、また、吉良義周は改易の上、信濃高島藩にお預け、浪士の遺児の内男子は遠島流罪、十五歳以上の四人は伊豆大島に配流。



(徳島城博物館参考)



法類会における議事進行の様子

高尾山法類会

六月二十四日

去る六月二十四日、薬王院の縁故寺院の集まりである高尾山法類会が、八王子市内の割烹・伊奈喜で開かれ、総勢四十四名の参加者が集まり、和やかな雰囲気の中で法類会が行われました。

法類会々長の菅谷執事長より御挨拶を頂き開会となり、続いて議事が進行され、平成三十年度収支報告、平成三十年度収支監査報告、法類会の近況報告などが行われました。議事の中では、新入会員の神奈川教区・華藏院・保永盛尚住職が紹介されました。

その後の懇親会において、参加者は歓談のひと時を過ごされました。

高尾山 季節散歩

暦の言葉 「七十二候」

蓮始開

「はすはじめてひらく」

七月十三日〜七月十七日頃

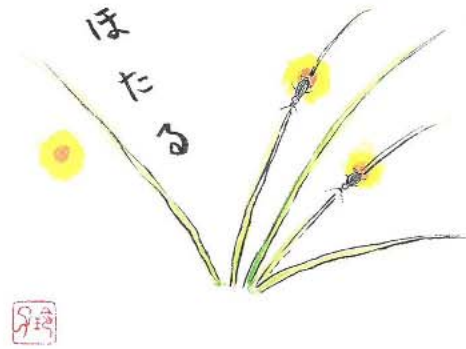
字の通り蓮の花が咲き始める頃です。蓮の花は古来より極楽浄土に咲く花とされており、「清らかな心」を花言葉に持ちます。

高尾山上においても、七月中旬には御書院前で咲きはじめます。

健康登山者投稿作品

季節の絵手紙「ほたる」

八王子市 栢谷玲子 様



今月の風物詩

朝顔

朝顔といえは夏の花で、子供の自由研究の花というイメージが強いですが、実は開花時期は十月頃までです。

平安時代には日本に入ってきたとみられ、当初は「牽牛子」とよばれ、下剤や利尿剤の生薬として利用されておりました。

一步一步煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

七十八段 穏やかな心でいつも

「穏やかな心」を持つ人は、いつも笑顔で心に余裕がある、朗らかな人です。ずっと不機嫌そりこしている人には声をかけづらいものですが、明るい雰囲気を持っている人には、多くの人が寄ってきます。

健康登山の皆様へ

高尾山報投稿の御案内
御読摩受付所では、皆さまの「健康」に関する思いや思い出・習慣、又は「健康登山」を通じて経験した出来事などの心温まるお話を聞かせて頂いています。

そこで、皆様のお話を多くの方々に届けられますように、御読摩受付所に「投稿箱」を設置致しまして、皆様から投稿頂いたお話や作品を、「高尾山報」に掲載させて頂いております。

その他、おもしろい体験・変わった出来事・ポエム・俳句等どんなお話でも結構です。是非お聞かせください。御協力宜しくお願い致します。

※ 投稿頂きました作品は全て掲載できるような努めますが、当山の判断で掲載しなかった場合もありません。また、多くの方に投稿頂きました場合、掲載までお時間を頂く場合がございます。すことを御了承下さい。

「高尾山健康登山の証」のお勧め

年間約二百八十万の人々が訪れ、「世界一登山者の多い山」として知られている高尾山。登山者の皆様の励みになれば、との思いから平成十一年から健康登山を始め、いまでは約五万人の方々が会員となられております。

期限はございませんので、御自分のペースで楽しみください。

また、一冊に付き二十一回スタンプを押すべしを満行と言います。満行されますとお祝い膳として、精進料理の御接待や健康登山者限定の記念品などと交換もできます。



帳面……七百円
スタンプ……百円

佐々井秀嶺師 山本秀順大和尚の墓参に来山

去る五月二十九日、インドにおいて仏教復興運動に尽力されている佐々井秀嶺師が、初夏の高尾山へ来山されました。

佐々井師は、昭和三十五年高尾山で得度し、前貫首・山本秀順大和尚の弟子となり、昭和四十年にタイに留学、その後インドへ渡り、不可触民開放運動の父・アンベードカル博士の遺志を継ぎ、ナグプールにおいてインド仏教の復興運動を続けられております。

高尾山に到着された佐々井氏は、先師墓地にて前貫首のお墓にお参りされ、これまでの活動について報告されました。



山本大和尚の墓前にてお参りされる佐々井師

院内散歩 29

～薬王院の展示物～



木版画 『八坂寒月』
作・井堂雅夫

おはなし散歩道

山に並んだ提灯

町田市 大澤桃代

(わかつているよ)

「きつねの提灯だ！」
「久しぶりだな！」
宿場の人々が日暮れの山を見上げ、騒いでいる。山肌に橙色の灯りがゆれている。町の外れから百七の石段を上った稲荷神社の辺りだ。

きつねはいっそう尾に力をこめる。提灯が二つなら尻尾に点せばいいが、二つ以上ともなれば、火を宙に置いたまま次の火をつける。何年もかかって覚えたが、いつでもできる訳ではない。また、全てのきつねが持つ技でもない。

「きつねの提灯」は、武蔵野国のきつねに伝わる技で、夕刻の山に火を灯すものだ。その日、古いきつねが尻尾に力をこめて火を灯していた。

「おお、二つになった！」
騒めきは、ますます大きくなった。

人がどんどん集まってくる。かつては鄙びた宿場だったが、戦争が終わり鉄道が敷かれると、町は次第に大きくなった。そうして、提灯の宿場として評判になったのだ。

(わしも、まだまだ捨てたもんじゃいな)
きつねは得意になる。「もっと、もっとだ！」
大きな声が響く。

きつねに人々の歓声が届く。見物人あつてこそ提灯なのだ。

きつねとは顔なじみの爺で、山仕事で鍛えた喉は衰えていないようだ。宿が忙しくなりめつたに山に来なくなったが、提灯を上げた翌朝、神社に行くと必ず油揚げが上がつている。爺のおかげだ。「宿場が栄えたのは、きつねのおかげだ。有難い」
爺はいつも言っていた。「もっと、上げるよ！」
爺が叫ぶ。

「おお、二つになった！」
騒めきは、ますます大きくなった。

きつねはまた火を点す。火は見る間に三つ、四つになった。
きつねはまた尻尾に力をこめる。人々が拍手をする。ひいふうみい……と子どもらが火を数える。もっと上げたいが、一匹の力では六つが限界だ。鉄道が来る前は、たくさん仲間がいた。

行くとき必ず油揚げが上がつている。爺のおかげだ。「宿場が栄えたのは、きつねのおかげだ。有難い」
爺はいつも言っていた。「もっと、上げるよ！」
爺が叫ぶ。
(しようがねえ爺だな)
きつねはまた火を点す。火は見る間に三つ、四つになった。
きつねはまた尻尾に力をこめる。人々が拍手をする。ひいふうみい……と子どもらが火を数える。もっと上げたいが、一匹の力では六つが限界だ。鉄道が来る前は、たくさん仲間がいた。

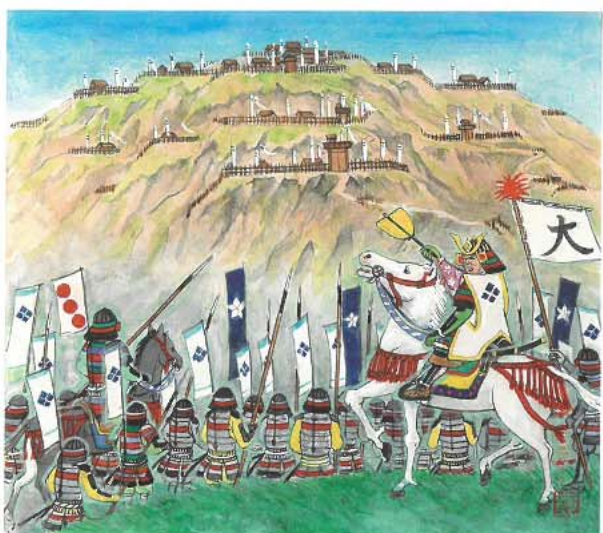
ねは涙ぐんだ。
ところが、山が崩され町が広がると、見る間に仲間が減っていった。山がなくなり食べ物も少なくなつた。生きて行くのに精一杯で、提灯を上げるどころではなくなつた。
(おれは最後の一匹だ)
六つの灯りはおぼろになり、やがて消えた。
(こんなに上げたのは久しぶりだ)
きつねは疲れていたが、満足だった。
「いや、きれいだった」
「見事なものだな」
人々は口々に言つて、宿へ引き上げて行く。あたりはすっかり暗くなつたが、爺は一人山を

見上げていた。
「きつねよお、無理したんじゃないか」
日の出前、きつねは藪の中を歩いた。静かだった。爺がやってきた。いつものように油揚げを供える。香ばしい匂いが、きつねには懐かしかった。
やがて数をかき分ける音がした。
「きつねよお！ あれが最後の提灯だったか？」
爺が叫ぶと、きつねは、こくんとうなずいた。そして、そのまま動かなくなつた。
「立派な提灯だったよお」と、爺がつぶやく。
朝日が昇つてきた。
(完)



高尾山物語 15

滝山合戦



絵・橋本豊治

滝山城は、八王子市丹木町にあった戦国時代の日本の城で、「続日本百名城」に選ばれている。北方の多摩川方面から侵攻に対し、天然の崖を利用するなど堅固に作られていた。

小田原北条氏と甲斐武田氏との抗争が激化し、武田氏は北条氏の本拠地・小田原城を目標し、関東侵攻を開始した。
永禄十二年(一五六九)北条・武田間の国境を守護していた北条氏照は居城の滝山城で籠城して武田軍を迎え撃ち、数に勝る武田軍を撤退させた。
「甲陽軍鑑」によると相当な激戦となつたようで武田信玄の嫡男であつた勝頼が大いに活躍し、滝山城は落城寸前まで追い詰められた。しかし、氏照自ら兵を率いて城を出撃し、奮戦の末に撃退したと伝わっている。
この合戦や甘里の戦いの結果、氏照は滝山城では西方の甲斐方面から攻めてくる勢力に対する防衛が難しいと考え、後に滝山城を廃城とし、西方に八王子城を築いた。



参道の各「手すり」を塗る社員の皆様

奉納御礼 参道手すり塗装工事

この度、㈱エース・リフォーム・八王子支店の御奉納によりまして、六月三日に参道の「鉄製手すり」塗装工事が行われました。
㈱エース・リフォームは長野県・山梨県を中心に企業活動されており、創業以来「塗懸命」をスローガンとして掲げ、地域貢献として塗装ボランティアを続けておられます。
八王子支店を開業以来、八王子市内でもボランティア事業を行い、高尾山では三回目となります。昨年は祈禱殿外壁塗装工事、一昨年には仏舎利塔外壁塗装工事を行って頂きました。
茲に重ねて御礼申し上げます。

今の自分に満足感謝心にゆとり生まれてく

雨のお散歩

シキシキ歌手 友納あけみ

雨の季節がやってきま
した。ここ、桜水上に引
越し、はや四ヶ月が過ぎ
ました。梅が咲きたし、
春を告げてくれ、それか
ら桜、桜、桜！雪柳、
八重桜、花木木、石楠花、
パンジー、薔薇、マーガ
レット、タンポポ、ツツ
ジetcそして名前の解らな
い沢山の花たち！

この町にはいつも花が
溢れています。何本も並
んで続いている緑道にも、
それぞれの家々の玄関先、
垣根沿い、お庭で皆さん
丹精込めて育てて下さっ
ていて、駅への行き帰り
を本道に楽しませても
らっています。うすすら
と朝日が射す頃、昼間の
たつぷりの陽射し、茜色
の夕暮れ！お日様はス
ポットライトのように
様々のシーンで花々を輝
かせてくれます。

ただ、紫陽花だけは別
やっぱ雨が似合う花！
梅雨入りにやっと出番が
きた！とばかり、鮮やか
さをまわしてきます！
真っ白、紫、赤紫、こんも



雨を浴びて鮮やかさが増す紫陽花

り手鞠の様に咲き揃った
紫陽花たちが嬉しそう
に雨を浴びています！
傘をささず、長靴を
はき、レイン帽を被りコ
ンビニで買った、真っ白
の大きな雨合羽を着込
んで、さあ！これでどん
なに濡れても大丈夫！完
全防備で雨のお散歩を
楽しんでいきます（笑）
「雨もまた善きかな！」

高尾山仏舍利塔 結縁牌懸仏のおすすめ

高尾山にはタイ王国・王室より授
けられた、大聖釈尊の真身骨を奉安
してある仏舍利塔があります。そし
てその周りを囲むように建立された
百観音お砂踏霊場がございます。

御信徒各位には、釈尊との御勝縁
を結ばれますよう、仏舍利塔内に結
縁牌懸仏（かけぼとけ）をご納仏さ
れることをお勧め申し上げます。

この結縁牌懸仏は、夫々のご家族
の先祖代々供養の為に、あるいは講
中、参拝団の物故者慰霊の為に、お
釈迦様と御信徒の皆様との尊いご結
縁のしるしとして、霊名あるいは施
主のご芳名を刻み、仏舍利塔内壁面
に奉安し、大聖釈尊の聖骨と共に幾
久しく供養されるものであります。

御納仏冥加料
一体 拾万円也



尚、お申し込みの方には
「御納仏回向之証」
をお授け致します。
(左の写真)



高尾山の昆虫

チョウトンボ

チョウやトンボは昔から親
しまれている昆虫で、ひらひ
らと優雅に舞うチョウ、直線
的に軽快に飛ぶトンボ、どち
らも見慣れた風物詩です。
ところがこの両者を併せ
持つ種がいて、それはチョウ
トンボ（蝶蜻蛉）です。
名前からだと判断は難し
いですが、れつきとしたトンボ科に属するトンボの一
種です。



水性植物の多い池の周りをチョウのような、ひら
ひらと飛ぶ姿はまさにチョウトンボの名に相応しく、
遠くから見たらチョウだと思いかも知れませんが、
他のトンボに比べると動きが極めて緩慢なため、
トンボ少年がいたら容易く捕獲されてしまうと思
います。
体は濃い青紫色の金属光沢を放ち、光の当たり具
合により虹状に反射しますので、とても綺麗です。
よく見ると四枚の翅は均等でなく、前翅は他のトン
ボと同じ様な形状ですが、後翅は目立って幅が広く、
これがチョウのような見え、チョウのように飛ぶ由縁
であると分かります。
近年数が減ってきて絶滅危惧種となっている地域
も少なくないようですが、高尾では愛らしい姿に出
会えると思います。
(文松島 孝 撮影上村 雅昭)

江戸消防記念会 第十区高尾山高聲會 木遣塚祭

六月十六日 於・飯縄権現堂下踊場



高尾市	八木	英子	越谷市	鈴木	智恵子
国分寺市	高木	時	二階堂	恵美子	
飯田市	川島	豊子	東筑摩郡	岸	恵三郎
加須市	森	眞規	茅ヶ崎市	岡本	イネ子
足利市	塩崎	君子	八王子市	申田	展子
前橋市	須藤	サト子	湖西市	鈴木	祥平
八王子市	八木	原組	さいたま市	菊地	知恵子
所沢市	石田	博司	八王子市	菊地	知恵子
伊東市	沖田	正太郎	国分寺市	加賀	正行
所沢市	大江	弘	桐生市	中里	雅巳
吉崎	永元	元	八王子市	西	蓮寺
青木	永次		府中市	永田	新一
			岩見沢市	俵屋	新一
			高尾山健康登山者一同		



登山だより

八月行事日程

一日～七日

聖天秘供(聖天堂)

十二日、二十四日

弁天様御縁日

五日

御詠歌勉強会

八日

(十時山麓不動院)

仏舍利詣り(仏舍利塔)

二十一日

飯縄様御縁日

神徳報謝百味飲食供

(九時大本堂)

二十四日

月例写経会

(十二時山麓不動院)

二十五日

高尾山とんとんむかし

「語り部の会」

(十二時半山麓不動院)

二十八日

奥の院開扉供養

(十時奥之院)

◎飯綱山火まつりの

御案内

八月十日(金) 信州飯

綱山麓大座法師池周辺に

て、飯綱山火まつりが挙

行されます。

夕方より、柴燈護摩供

が厳修されますので、お

知らせいたします。

(問い合わせ)

飯綱高原観光協会

Tel.026-239-3131



毎日の お護摩奉修時間

(4月15日～10月31日まで)

午前5時30分

// 9時30分

// 11時00分

午後0時30分

// 2時00分

// 3時30分

ご講中・団体等御相談
下さい。



八王子交通安全火のまつり

開催のお知らせ

七月二十七日(土) 午後四時半より
於・ダイワハウススタジアム八王子
(富士森公園野球場)

◎高尾山夏期講座の お知らせ

日時 七月二十八日(日)

午後一時より

会場 高尾山薬王院

大本坊有喜閣大広間

(入場無料)

演題「お不動様について」

講師 金岡 秀郎 先生

(八王子市妙薬寺住職、

国際教養大学特任教授)



高尾山薬王院ホームページ
<http://www.takaosan.or.jp>

発行所
東京都八王子市高尾町2177
大本山
高尾山薬王院
郵便番号 193-8686
電話(042)-661-1115(代)
FAX(042)-664-1199
発行人 菅谷 秀文
編集人 渋谷 秀芳
印刷 ヒラツカ印刷社
毎月1回1日発行
1部50円